

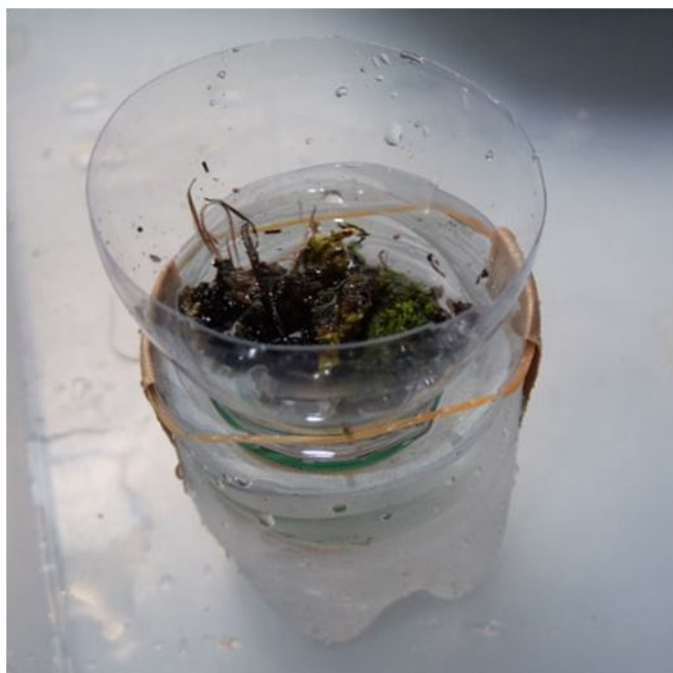
「クマムシの研究(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

クマムシは世界中に生息し、1000種類以上が確認されているという。コケの隙間にいるということは、陸生のクマムシということになる。大きさから考えると、「陸生プランクトン」とも言えそうだ。私は、手始めに、北軽井沢でクマムシ探しをしてみた。



クマムシが多く見つかる「ギンゴケ」は、どこにでもあるごく普通のコケで、コンクリートの壁などにへばりついていて。写真はギンゴケではないが、とりあえず採取して、クマムシを探してみることにした。クマムシはコケの深いところによく見られるので、土ごと採取するのが良い。



採取したコケは、左下の写真のように、ペットボトルで工作した簡単な装置で、水の中に落ちるのを待つ。下に向けたペットボトルの口には、ガーゼを巻き、輪ゴムで留めてある。クマムシは光が苦手なので、Z(ゼット)ライトなどで上から光を当てると、下の水に落ちやすい。この状態で2時間ほど置いたあと、下の水に沈んだゴミを顕微鏡で観察してみた。



最初に見つけたのは線虫だった。水の中でクネクネと動いている。私は線虫というのは、池や川の水中にいると思っていたが、陸上のコケにもいるとは、驚きだった。



次に見つけたのがこの写真の生物。ワムシのように、伸び縮みしながら、動き回っている。もしや、クマムシを背中側から見た姿だろうか?少し追ってみよう。